

山田濟齋編「西郷南洲遺訓」岩波文庫 1939年2月2日刊を読む

1. 政の大体 一文、武、農一

(1) 政の大体は、文を興し、武を振ひ、農を励ますの三つに在り。

(2) 其の他百般の事務は、皆此の三つの物を助くるの具也。

(3) 此の三つの物の中に於て、時に従ひ勢に因り、施行先後の順序は有れど、此の三つの物を後にして他を先にするのは更に無し。 P6

2. 道 一天地自然の道一

(1) 道は天地自然の道なるゆえ、講学の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己を以て終始せよ。 P12

(2) 道は天地自然の物にして、人は之を行ふものなれば、天を敬するを目的とす。天は、人も我も同一に愛し給ふゆえ、我を愛するを以て人を愛する也。

(3) 人を相手にせず、天を相手にせよ。

天を相手にして、己れを盡て人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ぬべし。 P13

3. 思慮

事に当り思慮の乏しきを憂ふること勿(なか)れ。凡(およそ)思慮は平静黙座静思の際に於てすべし。有事の時に十に中八九は履行せらるるものなり。

[コメント]

百ページに足りない小さな本であるが、西郷先生の思想が凝縮された日本国民必読の書。一語一語その意味をかみしめること、繰り返し音読することが「理解」の第一歩。

- 2009年3月4日林明夫記 -